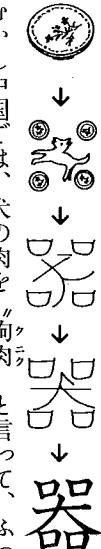


# 器

四年

画数  
15筆順  
オン キ  
ウン うつわ

成り立ち



むかし中国では、犬の肉を「狗肉」と言つて、ふつうの人々の食肉でした。『器』は、その狗肉をもる「うつわ（入れ物）」を表した字で、その形を表した「口」四つと、「犬」を組み合わせて作った字です。だから、もとの字は「器」で、今の字は「」がはぶかれたものです。

犬の肉は下等で、上等な肉は羊の肉でした。それで、「羊の頭をかかげて狗肉を売る」（羊頭狗肉）という諺があります。店先に羊の頭をぶら下げて、いかにも羊の肉を売ると見せて、実は狗肉を売りつける、というようになります。

店先に羊の頭をぶら下げて、いかにも羊の肉を売ると見せて、実は狗肉を売りつける、というようになります。

器具は「入れ物」の意味から、「道具」、また「人物（人がら）」や「才能」の意味に使われます。〔例〕器具、樂器、武器、器械、大器、器量。

# 機

四年  
画数  
16  
筆順  
ウン  
機 機 機 機

成り立ち



「人」と「戈」とで、「てきにそなえて」「まもる」意味を表した「戊」と、糸の頭（糸ぐち）を表し、「物事の『始まり』」「物事の『きざし』」という意味の「」とを組み合わせた「幾」は、「わざかなきざしにも気をつけてしまもる」ことを表した字です。

「きざし」はわずかでも大きな事件になるものですから、「見かけは小さいけれども大きな仕事をする」「しかけ」を、「機」と言いました。〔例〕機械、機関。

「大きな事件になる、わずかな『きづかけ』」「ちょうどよい時」という意味にも使われます。〔例〕動機（動くきっかけ）、転機、時機、好機、待機。

また、むかしのおもな機械の「織機（はた）」のこと。

## 使い方

▽ 今、機械は金属でできたものが多いですが、むかしは木で作られました。機械が木へんで書かれているのはそのためです。機械が現代に発明され、字も今作られたとすれば、金へんになっていたかもしれませんね。

## 熟語例

▽ 機械（動かして、何らかの仕事をするしかけ）

▽ 機関（ある働きをするためのしかけ。とくに、エンジンのことをいいます。また、ある目的のために作った組織のことも「機関」といいます。「機関誌」といえば、ある組織が発行している新聞や雑誌のことです。）

▽ 動機（ある行動をとるきっかけ。そのことをした原因。）

「いったい、何が動機で、画家をこころざしたのか」などというふうに、つかいます。

▽ 転機（前と違った状態に変わるきっかけ。「病気が転機になつて、人生に対する態度がまじめになつた」などというふうに、つかいます。）

▽ 好機（ちょうど好い時。「得点する絶好の好機だ」などというふうに、つかいます。）

## 便利方

△ 音楽の時間には、いろいろな樂器を使います。わたしは打樂器が好きで、ティンパニや木琴をたたきます。

△ わたしのおかあさんは、食器を集めるのが趣味です。お皿やお茶碗を見て歩いては、良さそうなのを買ってきます。だから、食器棚はいつもいっぱいです。

## 熟語例

▽ 器具（道具のこと。）

▽ 楽器（音楽を演奏する時につかう器具）

▽ 武器（戦争の時につかう器具。また、そこから「有効な手段」のたとえにも、つかわれます。「有力者から仕入れた知識を武器にして、世の中を渡つて行く」などと

いうふうに、つかいます。）

▽ 器械（道具。「器械体操」といえば、鉄棒や平行棒などの器械をつかつてする体操のことです。）

▽ 大器（大きな器、という意味から、大人物、大きな才能、という意味につかわれるようになりました。「大器晩成」ということばがあります。大人物が、若い時はあまり目立たず、おそらくは、実力を發揮する時に、つかわれます。）